

町田市長

石坂 丈一殿

2021年1月13日

少人数学級を実現する会

要望書

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

私たち少人数学級を実現する会は、昨年11月25日に要望書を提出しました20人学級を実現する会から、特に町田市堺地区の学校について考えたいと作った会です。先般の要望書の内容につきまして、詳細な回答をいただき、深く感謝申し上げます。この度、私たちも調査したことがございますので、再度要望書を差し上げることになりました。お忙しいところ恐縮ですが、よろしくお願いいたします。

ご承知のように、堺地区は、東西に長い地区です。町田市内在住の方でも、堺地区まで実際に来られたことがある方は、少ないのではないのでしょうか。町田市は、昭和30年代から住宅団地造成により人口が大幅に増えて、それに伴い、多くの学校を建設してきたという歴史があります。しかし、堺地区の学校は違います。

堺地区の小学校は、相原小学校も大戸小学校も古い歴史があります。堺地区は、昭和33年に、町田市になる前は、堺村でした。明治5年に学校制度が発布されましたが、明治7年、相原学校は、長福寺を仮校舎として開かれました。大戸学校は、同年、円林寺を仮校舎として開校しました。相原尋常小学校は、明治20年7月20日に創立ですので、今年創立146周年になります。明治25年、大戸学校も大戸尋常小学校と改めました。

明治41年、大戸尋常小学校は、相原尋常小学校に合併しましたが、本校までの通学が困難なため、大戸分教場が作られました。昭和43年、交通機関の発達に伴い大戸分教場（大戸分校）が相原小学校に統合されますが、昭和58年、再び大戸小学校として設立されました。

堺中学校は、昭和22年創立、武蔵岡中学校は昭和58年創立です。相原小学校・大戸小学校・堺中学校・武蔵岡中学校ともに、守り育てて来たのは、地域の住民です。特に、大地沢の森林を守っている「相原保善会」は、物心両面で学校を支えてきたと聞いております。堺地区の学校は、住民の心のよりどころであり、どの学校が廃校になっても、地域の住民から異論が出ることは必至です。

12月8日のご回答の中に、昨年の6月にアンケート調査をされ、2572人から6921件の意見があり、また、6月の町内会自治会連合会地区長会でも説明されたとありましたが、堺地区のみなさんは、ご存知ないようです。昨年の5月・6月は、新型コロナによる休校または休校開けのときだったと思います。そのようなときに、アンケートに答えることも会議に集まることも困難だったと思われます。ともあれ、堺地区の住民の方で、相原小・堺中または大戸小・武蔵岡中のどちらかが廃校になる事を知っている方に一人も会わないし、地域の主な方に聞いてみてもどなたもご存じありません。これは、どういうことでしょうか？開かれた行政をうたう町田市としては、あってはならないことではないでしょうか。

「まちだの新たな学校づくりに関するアンケート調査・意見募集報告書」をインターネットで読ませていただきました。

堺地区の学校におけるアンケートの回収率は、相原小 28.8%、大戸小 29.4%、堺中 21.2%、武蔵岡中 16.0%です。町田市全体でも、小学校 32.7%、中学校 23.0%、合計 27.8%です。保護者の3割か3割に満たないアンケート回収率になっています。これは、保護者の関心の低さというより、休校中または分散登校中であり、考える余裕を持ち合わせなかったと考えるべきだと思います。

そんな中でも、一番多い意見は通学時間が長くなる事への心配、次のような意見です。

相原町は特に横長の区域なので通学時間がきりすぎるのはもちろん、徒歩通学の子どもは交通事故にも不審者などの事件的な事にも危険が多いように思います。バス通学の子どもはバス内でのトラブルも多いと聞きます。見守りなど充実できたらいいとは思いますが限界があると思います。むしろ学校を増やして欲しいくらいです。

私たちが聞きとった意見の中に、次のような切実な保護者の声があります。

この統廃合計画が
コロナ禍に着々と進められていることが
ホントに腹立たしい。

狭くて貧弱な通学路に
毎朝我が子を送り出す保護者の思いを 行政は理解しているのか
と
歩いてみて また 新たに怒りがわいてきた。

自宅から 相原小まで通わせていた時 帰宅した我が子の姿を見ただけで 「良かった！無事に帰ってきた！」と 抱きしめたくくなるような気持ちがわかるか？
あの道を あの踏切を
あの狭い歩道を あの自転車も激しく通る道を 友だちが 町田街道を渡っただけで亡くなったと知る道のわきを 毎日通う子どもの気持ち 保護者の気持ちがわかるか？

相原小をなくし
堺中をなくし

遠い ゆくのき学園に
通学させる

そんな危険極まりない策は 直ちに撤回を。

私たちは、1月7日木曜日、「学区内を歩いてみよう会・バスに乗ってみよう会」を実施しました。16号線と町田街道の交差点「相原」からゆくのき学園まで、1年生が歩いたらどれだけかかるか、危険箇所はあるか、バスに乗ったら何分かかかるかを調査するためです。

「相原」から町田街道を休まず歩いてゆくのき学園まで、1時間20分かかりました。子ども達は、町田街道に出るまで15分か30分かかかるわけですから、実際には2時間近くかかる子ども達もいるわけです。バスに乗ったらどうか、坂下バス停から円林寺バス停まで、バスに乗っている時間は10分くらいですが、バス停から歩く時間がありますので、20分はかかります。それに、町田街道まで歩く時間を加えると、50分かかることとなります。私たちが調査した時間帯は、午前11時頃でしたので、町田街道を走っている車は少なかったです。でも、朝夕は車の大渋滞でバスは動くことができません。子ども達は、バスの時間を気にしながら、朝早く家を出ることとなります。中学生が帰る5時頃は、最も渋滞する時間帯です。また、坂下バス停から円林寺バス停まで直通で行けるバスは、1時間に1・2本と非常に少ないです。ですから、相原駅西口まで歩き、そこから円林寺バス停までバスに乗らなければなりません。

スクールバスも同じです。堺地区のバスが通ることができる道は、町田街道しかありません。スクールバスだからといって迂回することは不可能です。また、バスを停車しておく所もありません。スクールバスを出すなど、夢物語です。ゆくのき学園ができる時、町田市はスクールバスを出すと言われましたが、実現していないのは、このようなわけがあるのでしょうか。

また、町田街道には危険箇所がたくさんあります。歩道が完備されていない箇所、歩道が非常に狭い箇所、ガードレールがない又は壊れている箇所、道が曲がりくねっている箇所、子どもの死亡事故があった箇所、踏切など新しい住宅街にはない危険箇所があるのです。町田街道では、子どもの交通事故が3件あり、3人のお子さんが亡くなりました。坂下の信号の所で亡くなった子は、生きていれば39歳。

町田市長、町田市議会の議員のみなさま、「まちだの新たな学校づくり審議会」のみなさま、町田市の事務局のみなさま、どの学校を統合校にするか決める前に、是非とも町田街道を歩いて視察されてから話し合いに臨まれることをお願いしたいと思います。

1月25日月曜日に「まちだの新たな学校づくり審議会」が開催されますが、このコロナの流行の中なので、リモートで行われるとあります。また、傍聴は遠慮してもらいたいとあります。この日は、鶴川地区と堺地区の検討の日ではないかと思われま。私たちのみならず、住民の多くが聴きたいと思っております。全く知らずに、統合校・廃校が決められることは、子ども達・孫たちに対して申し訳ないと思うからです。ぜひ、この審議会を市議会のように中継してもらいたいと思います。

次に、ゆくのき学園への町田市の政策についてです。

大戸小学校と武蔵岡中学校は、平成6年の584名18クラス(中学校は9クラス)を最高にして、だいに児童数・生徒数が少なくなっていました。そして、平成19年、児童数173名6クラスの時に、「町田市小中一貫教育モデル校」となり、合同運動会・合同学習発表会など小中の交流を進めながら、平成24年4月に、小中一貫ゆくのき学園として開校しました。平成23年には太陽光発電システム・校舎大

規模改修工事・校庭芝生化・正門設置工事などのために市税も投入されました。

ゆくのき学園は少人数学級のために、行き届いた教育がなされるし、小学生も中学生も手作りの温かい給食が食べられることが人気で児童数もしだいに増えてきています。これから、若い人向けの住宅が建てられれば、もっと児童数が増えることが予想されます。

そこに、相原小・堺中の子ども達が通うことになれば、たちまち密な学校になってしまいます。現在の小中一貫ゆくのき学園の良さをそのまま残す方が、町田市の発展につながると確信しております。

さらに、少人数学級と学校統廃合計画についてです。

12月8日の私たちの要望書へのご回答の中で、少人数学級について次のように回答されています。

「教室数の不足する学校における校舎の増築、プレハブ校舎の建設などの工事が必要となります。」

これはつまり、「少人数学級になれば教室が不足する」だから、少人数学級は実現が難しいということですね。反対に言えば、「少人数学級が実現すれば教室が不足する」と認めていることになります。

12月17日の文科相と財務相の大臣折衝で、「5年かけて小学校2年から順次35人学級にするように義務教育標準法を改定する」と決まりました。これから、コロナの時代ですから、少人数学級の要求は益々強まるだろうと予想されます。自民党は、「30人学級」を、公明党も「30人以下学級」を政府に要望しています。全国市長会は「まずは35人、そして30人が多くの意見」、全国市町村教育委員会連合会は「30人学級の早期実現は緊急かつ重要事項」、全国都市教育長協議会は「30人以下など少人数学級の実現を」、日本PTA全国協議会は「少人数クラスの実現は避けられない」、全国連合小学校長会は「30人以下の少人数学級の実現が必須」と、全国の主な教育関係団体が30人学級を表明しています。

5年たてば、全学年が35人学級になることは、すでに決まっていますし、その後も30人学級を求める世論が高まることは間違いありません。これから20年の間に、30人学級になるかもしれません。あるいは、欧米のように、20人学級になるかもしれません。その時には、必ず教室が不足してきます。このコロナの時代に、慌てて学校を廃校にしなくともいいのではないのでしょうか。堺地区の住民の大多数が、相原小も堺中もゆくのき学園もどの学校も廃校にすることはやめてほしいと考えています。

昨年12月21日（月）の「第9回まちだの新たな学校づくり審議会」に出された資料3の5「学校候補地の選定について」に、次のように記載されています。

（3）評価項目「児童・生徒の通学のしやすさ」及び評価項目「ゆとりある学校施設環境の整備」において、優先順位1位の学校の候補地が異なる場合

（略）町田の未来の子どもたちにより良い教育環境を整備することができるよう、原則として、評価項目「ゆとりある学校施設環境の整備」が1位の学校候補地を選定するものとします。

堺地区の学校の場合、先に出された「町田市立学校の新たな通学区域案における学校候補地 比較検討表その①によると、「ゆとりある学校施設環境の整備 評価項目」では、小学校、1位 大戸小、2位 相原小、中学校、1位 武蔵岡中 2位 堺中と記載してあります。

もう一つの評価項目「児童・生徒の通学のしやすさ」では、相原小・堺中の方が人数が多く、先に述べたように大変危険な町田街道を2時間近くかけて歩かなければならないわけですから、小学校では1位 相原小、2位 大戸小、中学校では、1位 堺中、2位 武蔵岡中になる事は明らかです。

しかし、12月21日の審議会で決めた原則に従いますと、統合校は、大戸小と武蔵岡中となります。

この原則を、堺地区の学校の場合も適用することができると思われませんか？現在、相原小の児童数は409名、堺中の生徒数は569名です。これらの子ども達が一本の町田街道を大戸小・武蔵岡中に向かってぞろぞろ歩く姿を想像してください。雨の日は傘もさしている、夏場は熱中症の危険性。学校教育は心身共に健やかな子ども達の育成を目標とするものなのに、通学途中の安全が脅かされる。このようなことがあっても良いのでしょうか？我が子が、我が孫がこの危険な町田街道を長い時間かけて毎日歩かなければならないとしたら、どう思われますか？

ゆくのき学園から相原小・堺中に通うことになれば、やはり同じことが言えます。だから、過去に相原小にいったん統合しても、分校を作らざるを得なかったのです。堺地区は、東西に細く長い、この地形を考慮して、審議して下さるようお願いいたします。

町田市長、市議会議員のみなさま、「まちだの新たな学校づくり審議会」のみなさま、町田市の事務局のみなさま、ゆとりある学校施設環境の整備がされている学校であっても、どんなに広くきれいな学校であっても、毎日の通学が厳しく、命さえ脅かされるようでは、町田市の新たな学校づくりの趣旨に添わないどころか、将来にわたって禍根を残すと思います。子ども達の通学・命に思いをはせた血の通った行政であってほしいと切に思います。

私たちは、皆様のご判断を信じて、下記のように要望いたします。

記

- 1, 堺地区の学校、相原小学校・堺中学校・ゆくのき学園を廃校にしないでください。少なくとも、1月25日の審議会で堺地区の「統合校」を決定することはやめてください。
- 2, 「まちだの新たな学校づくり審議会」をオンラインで開催するときは、市議会のように中継してください。
- 3, 早期に、学校統廃合についての住民説明会を開いてください。

尚、お忙しいところ恐縮ですが、ご回答をいただきたくお願いいたします。